



SWPBS（学校規模ポジティブ行動支援）とは何か？

◇SWPBSはどうやって始まったのですか？

・SWPBSは、アメリカ合衆国において2000年頃から取り組み始められました。アメリカにおいては、1997年に連邦法である個別障害者教育法（Individuals with Disabilities Education Act：IDEA）の改訂によって科学的な根拠のある行動支援を実施することが法的に義務づけられるようになり、SWPBSが普及する契機となりました。今ではアメリカにおいてSWPBSに取り組んでいる学校はおよそ20,000校あります。その他の国でも、例えばオーストラリア、ノルウェー、カナダなどにおいてもSWPBSの成果が報告されています。



◇SWPBSに取り組んだ後、教職員や児童にどのような変化がありましたか？

- ・全校で取り組んだので、自分の教室にいても廊下や他の教室からも元気なあいさつが聞こえてきて、本学級の児童のあいさつに対する意識も自然に高まりました。
- ・教員自身も意識して肯定的な言葉で声かけをするようになり、言葉だけでなく、あたたかい行動も増えて、学級全体がよい雰囲気になりました。
- ・授業の逸脱行動が減り、授業に集中できるようになったことで、学校全体が落ち着きました。
- ・友達とのトラブルが減り、仲良く遊べる児童が増えました。
- ・どのクラスもチャレンジ目標（マトリクスシートの活用）によって授業中のルールが明確になっています。できているところをほめ称賛しやすいので、児童の学習への動機づけも高まっています。



◇叱ることも大切だと思うのですが？

・望ましい行動を学ばせたい場合、「叱ること」や「罰・ペナルティ」がもつ効果とは、基本的に「行動の抑制」に限定されるそうです。「罰やペナルティの予告」によって、適切な行動を促すことができるかもしれませんが、それは単に児童生徒が罰から逃れようとしているだけです。児童生徒が、望ましい行動を学び、社会性を身につけることにはつながりません。



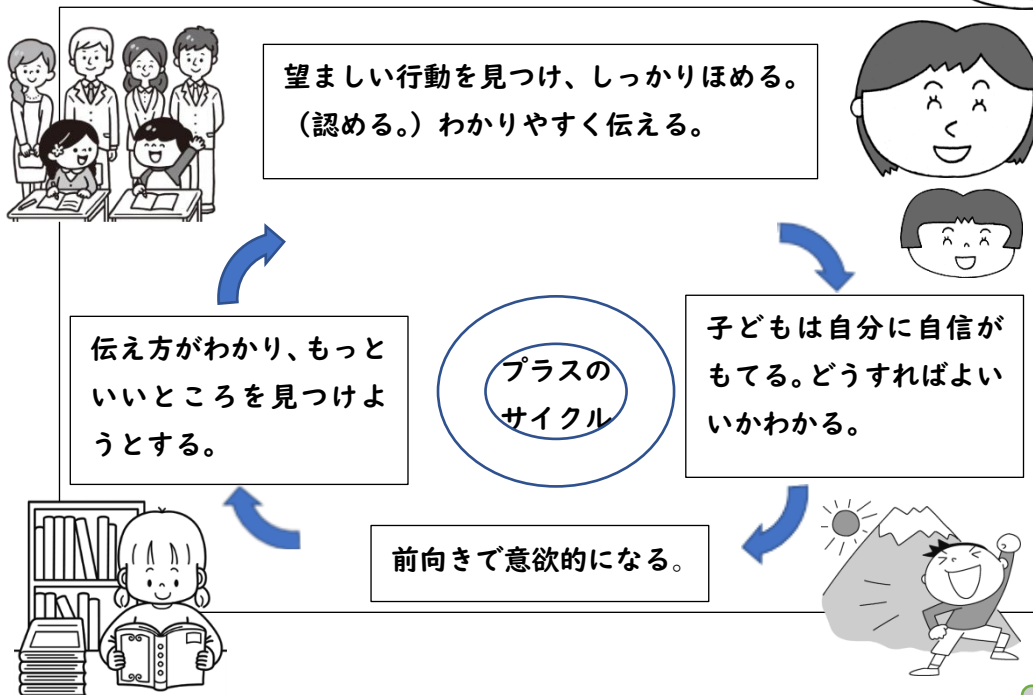
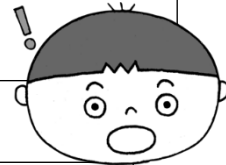
参考文献： ポジティブな行動支援 保護者向けパンフレットWEB版（令和3年11月）
国立大学法人鳴門教育大学・徳島県教育委員会
H29年度版スクールワイドPBSパンフレットWEB版（平成30年2月）
徳島県教育委員会



ポジティブ行動支援って何？

ポジティブ行動支援では、まず子どもの「すでにできているところ」を見つけ出し、ほめるところから始まります。

すると、子どもに自信や達成感が生まれ、さらに望ましい行動が増えていきます。それをまたほめていくことでプラスのサイクルがまわりはじめます。



ポジティブ行動支援ではここに注目

望ましい行動に注目し、ほめる・認める・励ますを繰り返すことで、望ましい行動を増やします。結果として、望ましくない行動が減っていきます。

